

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成 27 年 11 月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が54.3%で最も高く、次いで「信用金庫」が33.0%となっており、この2つで9割近くを占めている。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、33.1となった。「緩やか」が「厳しい」を大きく上回る状況が続いているが、前回と比べると、DI値は1.4ポイントとわずかながら低下した。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が72.3%と7割を超え、安定した状況が続いている。
- 最近の借入金利は、「1%台」が41.2%と最も高く、「1%未満」の17.6%とあわせると約6割を占めている。また、「2%台」が30.3%となった。前回と比べると、2%台以上がいずれも減少しており、金利水準は低めに推移した。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、14.9となった。前回と比べて3.3ポイント上昇した。
- 現在の借入先と保証の状況は、「金融機関 [保証協会の保証付き]」が62.0%で最も高く、約6割を占めた。次いで「金融機関 [保証なし]」が44.1%、「政府系金融機関」が26.8%となった。

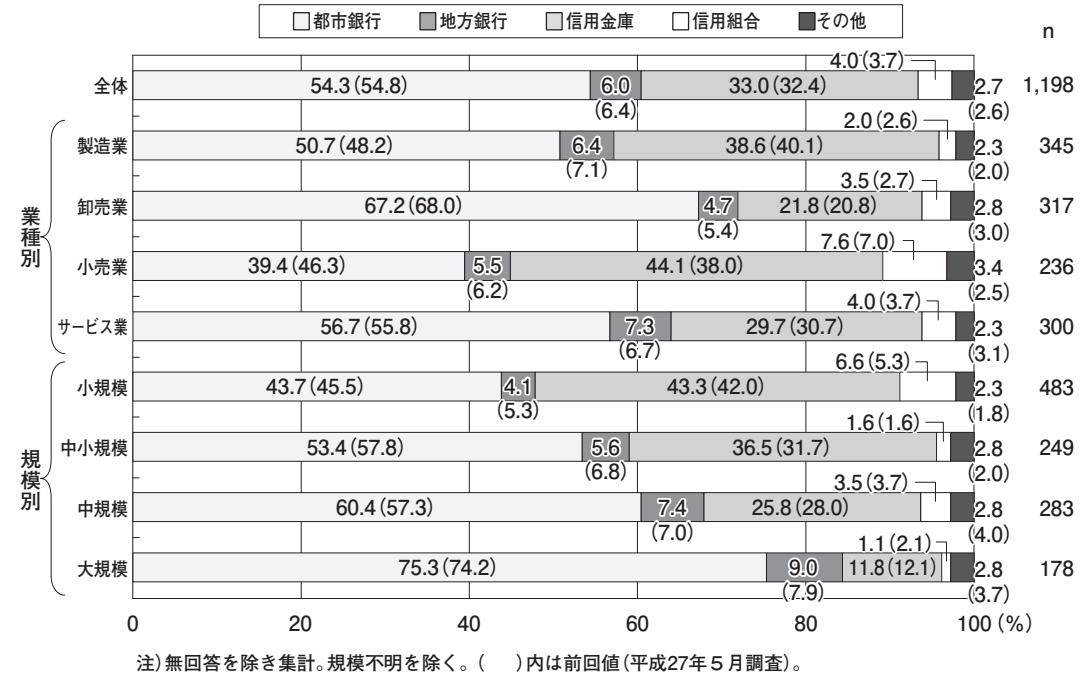
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が54.3%（前回54.8%）で最も高く、次いで「信用金庫」が33.0%（同32.4%）となっており、この2つで9割近くを占めている。前々回（平成26年11月調査）以降、わずかながら「都市銀行」が減少し、「信用金庫」が増加している。

業種別にみると、小売業を除き「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では67.2%と7割近くに達している。一方、小売業のみ「信用金庫」が44.1%で、「都市銀行」の39.4%を上回った。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が43.7%、「信用金庫」が43.3%で拮抗している。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなっており、大規模では「都市銀行」が75.3%と4分の3を占めている。

図表 1 主な取引金融機関



2 借入や返済に対する姿勢

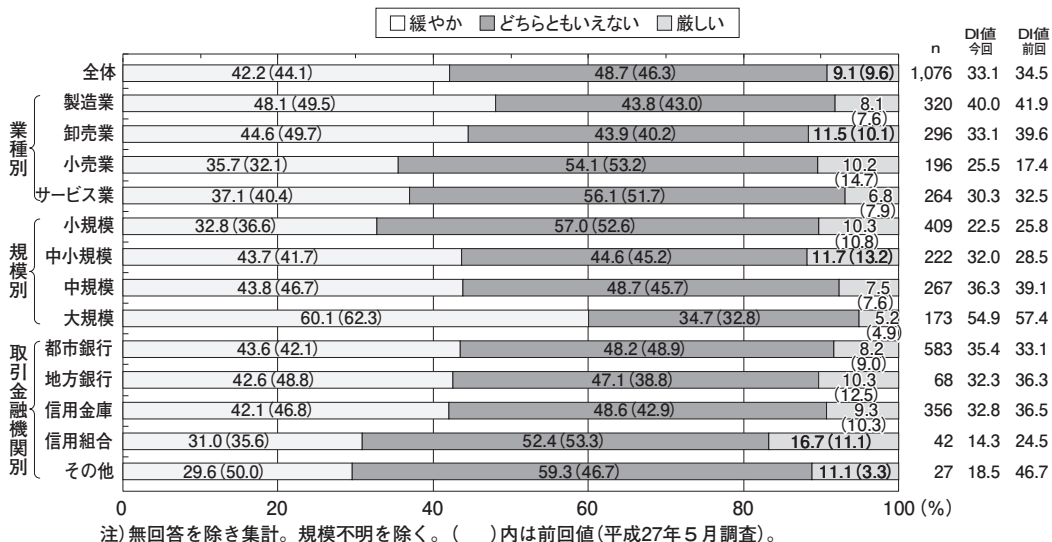
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では33.1（前回34.5）となった。「緩やか」が「厳しい」を大きく上回る状況が続いているが、前回と比べると、DI値は1.4ポイントとわずかながら低下した。

業種別にみると、卸売業33.1（同39.6）でDI値が6.5ポイント低下したほか、製造業40.0（同41.9）とサービス業30.3（同32.5）もやや悪化した。一方、小売業25.5（同17.4）のみDI値が上昇し、他の業種との差を詰めた。

規模別にみると、中小規模を除く全ての規模で、DI値が低下した。大規模54.9（同57.4）でも2.5ポイント低下したが、「緩やか」が約6割を占める状況が続いている。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行35.4（同33.1）ではDI値が2.3ポイント上昇し、緩和傾向が続いている。このほかの取引金融機関ではDI値が低下しており、信用金庫32.8（同36.5）は3.7ポイントの悪化となった。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が72.3% (前回70.6%) と7割を超え、安定した状況が続いている。また、「低下」が11.7% (同12.7%) で、「上昇」の2.9% (同3.6%) を上回っている。

図表3 金利傾向



(2) 金利水準

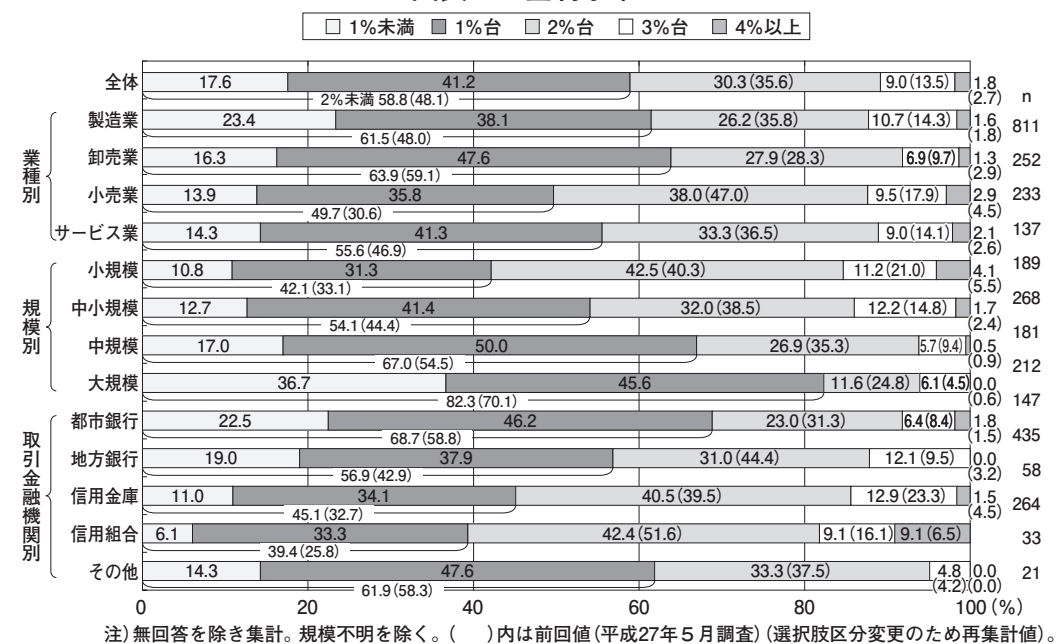
最近の借入金利は、「1%台」が41.2%と最も高く、「1%未満」の17.6%とあわせると約6割を占めている。また、「2%台」が30.3%となった。前回と比べると、2%台以上がいずれも減少しており、金利水準は低めに推移した。

業種別にみると、製造業と卸売業では2%未満があわせて6割を超え、他の業種に比べて金利水準が低い。特に、製造業では「1%未満」が2割を超えている。

規模別にみると、小規模では「2%台」が42.5%で最も高い。規模が大きくなるほど金利水準は低くなっており、大規模では「1%未満」が4割近くを占めている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が46.2%で最も高く、「1%未満」とあわせると約7割を占めている。信用金庫では「2%台」が40.5%で最も高くなった。

図表4 金利水準



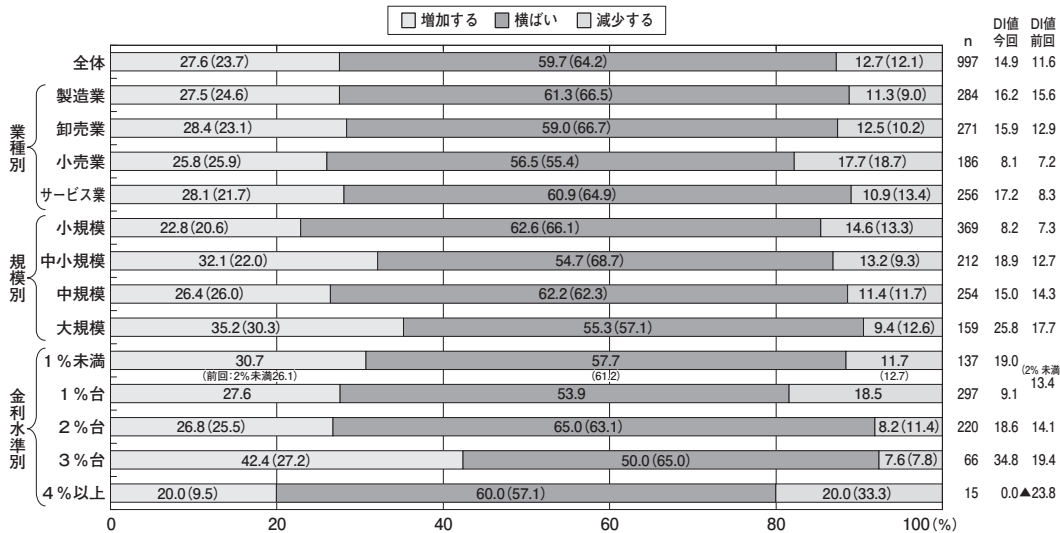
4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)でみると、全体では14.9(前回11.6)となった。前回と比べて3.3ポイント上昇した。

業種別にみると、全ての業種でDI値が上昇した。特にサービス業17.2(同8.3)は8.9ポイントと大きく上昇した。

規模別にみても、全ての規模でDI値が上昇し、特に、大規模25.8(同17.7)で8.1ポイントと上昇幅が大きい。

図表5 資金需要（今後3か月間）

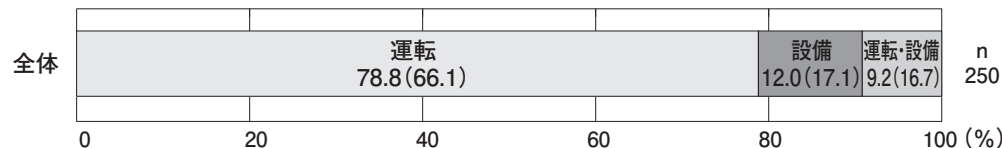


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。()内は前回値(平成27年5月調査)(金利水準別は一部区分変更)。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が78.8%（前回66.1%）と最も高く、次いで「設備」が12.0%（同17.1%）、「運転・設備」が9.2%（同16.7%）となった。前回に比べ「運転」が12.7ポイント増加し、「設備」が5.1ポイント減少した。

図表6 資金使途

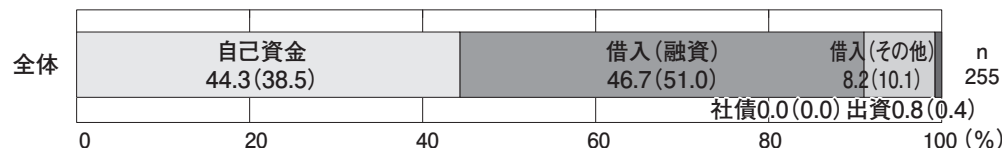


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成27年5月調査)。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「借入（融資）」が46.7%（前回51.0%）と最も高く、次いで「自己資金」が44.3%（同38.5%）となった。前回に比べ「借入（融資）」が4.3ポイント減少し、「自己資金」が5.8ポイント増加した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成27年5月調査)。

5 現在の借入先と保証の状況

現在の借入先と保証の状況（複数回答）は、「金融機関 [保証協会の保証付き]」が62.0%で最も高く、約6割を占めた。次いで「金融機関 [保証なし]」が44.1%、「政府系金融機関」が26.8%となった。

業種別にみると、全ての業種で「金融機関 [保証協会の保証付き]」が最も高く、製造業と卸売業では6割を超えている。また、製造業では「政府系金融機関」が31.7%、卸売業では「金融機関 [保証なし]」が48.6%で、それぞれ他の業種に比べて高くなっている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「金融機関 [保証なし]」と「政府系金融機関」が高くなっている。大規模では「金融機関 [保証なし]」が69.8%と約7割を占め、「金融機関 [保証協会の保証付き]」の46.9%を上回った。他の規模では「金融機関 [保証協会の保証付き]」が最も高くなっている。特に、中小規模では71.4%と7割を超えている。

図表8 現在の借入先と保証の状況

(複数回答：%)

	金融機関 [保証協会の保証付き]	金融機関 [民間保証会社の保証付き]	金融機関 [保証なし]	政府系金融機関	事業者金融 (貸金業者)	その他	n	
	全体	62.0	4.0	44.1	26.8	0.3		13.1
業種別	製造業	65.3	2.3	45.0	31.7	0.3	10.3	300
	卸売業	63.0	4.7	48.6	28.8	0.4	10.5	257
	小売業	58.1	5.0	33.1	23.1	0.0	19.4	160
	サービス業	59.3	4.7	45.3	20.8	0.4	15.3	236
規模別	小規模	64.1	3.5	27.8	19.4	0.6	18.0	345
	中小規模	71.4	6.1	39.8	26.0	0.5	9.2	196
	中規模	61.8	4.1	52.8	28.5	0.0	11.4	246
	大規模	46.9	2.5	69.8	39.5	0.0	10.5	162

注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。